

三条市実学系ものづくり大学開設検討委員会（第6回）

議事概要

- 1 開催日時 平成30年2月2日（金）15時00分～16時20分
- 2 場 所 三条市役所 第二庁舎1階 101会議室
- 3 出席者 [委員]（敬称略）
高橋（委員長）、兼古（副委員長）、シャハリアル、大湊、勝見、齋藤の各委員（6名・シャハリアル委員は雪のため開始20分後頃から出席）

[事務局]
大平総務部長、村上政策推進課長、瀬戸主幹、坂田高等教育機関設置準備室長、阿保主任、石田一般任用主事
- 4 傍聴者 1名
- 5 報道機関 越後ジャーナル社、建設工業新聞社、建設速報社、三條新聞社、新潟日報社、日本工業経済新聞社
- 6 配付資料
 - ・資料1 教育内容等の検討の進め方について
 - ・資料1別紙 教育内容等検討表
 - ・資料2 施設建設基本設計（案）について
 - ・資料2別紙 図面8枚
- 7 会議概要
 - (1) 開会
 - (2) 配付資料確認
 - (3) 議事
 - 冒頭、事務局から、配付資料に基づいて、「教育内容等の検討の進め方について」についての説明があった。
 - 各委員による意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。
[教育内容等の検討の進め方について]
 - ① 大学の教育内容に現場改善に資する講義等を組み入れ、地元の企業の現場改善

に資する人材が輩出できるとよい。

- ② 検討に当たっては、教える内容だけでなく、学び方についても考える必要がある。この大学の学び方としては、リバースエンジニアリングのように、学生が既存の工業製品を作り直してみることで新しいものを創造するようなことも考えられるのではないか。
 - ③ 様々な技術を網羅的に知っていることや様々な工程を見た経験は、新たなものづくりの発想に役立つ。地元企業の協力により、いろいろな技術を実際に目で見る機会を増やせると良い。
 - ④ 高大連携をはじめ、小学校や中学校、地元企業などと連携することで、大学の転出抑制の効果がより高められると思う。
 - ⑤ ものづくりの技術について全てを深く学ぶことは難しいが、ものづくりの現場を実際に見ることができるといえる・やってみることができるというのは、技術者育成にとって価値が高い。
 - ⑥ 企業によっては、実際の現場を見せることに抵抗感がある場合もある。協力依頼には工夫が必要。
 - ⑦ 大学で三条の古いものづくり技術の伝承などは行えないか。
 - ⑧ インターンシップで企業の機密情報の流出などを懸念されることのないよう、内容や時期に十分な配慮が必要。大学と企業との信頼関係の構築が重要である。
- 事務局から、配付資料に基づいて、「施設建設基本設計（案）について」についての説明があった。主な意見は以下のとおり。
- [施設建設基本設計（案）について]
- ① ものづくりシアターで見せるものづくりが、三条でなければできないものづくりであることが望ましい。それがこの大学の魅力・キャラクターになるだろう。
 - ② 駐車場については、積雪等のことも考えて十分な台数を確保するべきではないか。
- 事務局から次回以降の開催についての説明があった。

(4) 閉会

了